

船舶事故調査報告書

平成23年8月18日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行
 委員 根本 美 奈

事故種類	沈没
発生日時	不明（平成22年11月21日 23時50分ごろ～22日 06時23分ごろの間）
発生場所	愛知県名古屋市 新堀川右岸宮の渡し公園付近 （概位 北緯35°07.1′ 東経136°54.4′）
事故調査の経過	平成22年11月26日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客船 オーシャンループ、19トン 240-37286愛知、株式会社環（以下「A社」という。） 14.54m (Lr) × 4.09m × 1.97m、FRP ディーゼル機関、76kW、平成6年7月
乗組員等に関する情報	なし
死傷者等	なし
損傷	右舷舷側に擦過傷及び濡損
事故の経過	本船は、A社が、旅客不定期航路の運航準備のため、名古屋市宮の渡し公園付近の新堀川右岸の護岸に右舷着けで船首部、船体中央部及び船尾部にそれぞれ1本の係留索をとり、無人で係留中、左舷方に傾斜した状態で沈没しているところを通行人によって発見され、平成22年11月22日09時29分ごろ、海上保安庁に通報された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西～北北東、風力 1 海象：本事故発生前日及び当日は大潮の時期に当たっており、名古屋港の潮位は次のとおりであった。 11月21日 05時45分 230cm 11時28分 97cm 17時07分 225cm 23時50分 9cm 22日 06時23分 236cm 12時03分 97cm
その他の事項	本船は、護岸の基部が凹んだ場所に係留されていた。 本船は、右舷舷側に擦過傷が生じていた。 本事故発生場所の川底は護岸から川の中央部に向かって斜めに深くなっていた。 本船は、発見されたとき、船底が川底に着底し、船体の半分近くが水没していた。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、宮の渡し公園付近の新堀川右岸の護岸に係留中、低潮時の21日23時50分ごろから高潮時の22日06時23分ごろに至るまでの間に、舷側が護岸基部の凹部に引っ掛かったことから、その後の潮位の上昇に伴って船体が傾斜し、浸水して沈没したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、宮の渡し公園付近の新堀川右岸の護岸に係留中、低潮時を経て高潮時に至るまでの間に舷側が護岸基部の凹部に引っ掛かったため、その後の潮位の上昇に伴って船体が傾斜して浸水したことにより発生したものと考えられる。	